

ぶねあう おかやまのこい話

ちよと

※チラシは偶数月の第一月曜日に皆様におとどけています。

シリーズ ③

「ふうが悪い」と思いつ心

私は57歳の主婦です。
突然なんだと思われるかもしれませんが、いつの頃からか、「そんなことをしたらふうが悪いぞ」という言葉が聞くことが減ったように思うのです。もちろん、私の両親や私達の世代では使うこともあるのですが、私の息子世代では聞いたことが無いようにさえ感じるので。

私の父は小学校の校長先生をしていた昔気質の厳格な性格です。幼い頃から毎日のようによく叱られたものでした。

年に一度、父の誕生日には本家に親戚一同が集まるのが、我が家の恒例行事になっています。私は兄弟も多く、多いときには30人ぐらい集まることもあります。

去年の95歳になる3月の誕生日に集まったときのことでした。父のひ孫にあたる6歳の洋ちゃんが、何かの拍子に、親戚の叔父に向かって「おっちゃん、お金ちようだいよう」と言いました。私も内心「まあ」と思いましたが、かわいい孫ですし、談笑の中で話が流れていきそうになりました。

ところが、一緒に居た父の顔色が変わり、「何言いよんな！ふうが悪い！恥ずかしいと思わんのか!!」とすごい剣幕で怒り出したのです。洋ちゃんは、ビックリして泣き出してしまいますし、一同目を見合わせました。

父は、洋ちゃんの親の息子夫婦に怒っていました。
「家でどついついつけをしているのか！」と怒られた息子夫婦はバツが



悪そうな感じでしたが、もう一つピント来ていない風にも見えました。私は、自分自身の息子への関わり方がどうだったのかを考えさせられたと同時に、私自身が父から叱られているのだと身につまされる思いでした。

後日、その時の話を聞けば、息子が時々、お嫁さんに「お金ちようだい」と家で言っているらしく、それを真似たのだろうという話でした。父は「武士は食わねど高楊枝」を地で行く性格ですから、口が裂けてもそんなことは言わなかっただろうと思えます。

世代が変わっても日本人として、忘れてはいけない、「こんなことを言う」と恥ずかしい、こんなことをしたら人様に迷惑が掛かる。「そんな当たり前だったはずの感覚が自分も含め、いつの間にか希薄になっていくことに気づかされました。

私だけは大丈夫と根拠もなく思っていました。父・私・息子の間ですら感覚の差が生まれてしまっていました。いま一度、次の世代に伝えるべき日本の心というもの、大切に暮らしていこうと思った出来事でした。

皆様の『心ふれあうおかやまのちよと』

ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・感想もお待ちしています。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。
◆応募先 アーバンホール「ちよと」の係
〒710-0104 倉敷市堀南八〇五〇一
◆記入事項 ①住所 ②氏名 ③電話番号 ④年齢 ⑤エピソードご応募の方は二〇〇文字程度(原稿用紙・ワープロいずれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。

小人が恥じるのは自分の外面である、
君子が恥じるのは自分の内面である。 吉田松陰

度量や品性にかかる人間は自分の見かけや、世間体を恥じるものだが、私心なき徳を積んだ君子は自分自身の内面について反省するものだ、という意味です。自分自身や物事がどうあるべきか、という本質に照らし合わせて判断するのは容易ではありませんが、その基準をきちんと持ち、自分に恥じない日々を送りたいものですね。

葬儀・法要・ギフト

あなたのアーバンホール
アーバンホール